



三和
冊異
號
函上

水2
號5594
卷3

詞通路下卷

詞路平波のうらな事



さして相もてなほよと共とくくそつらふあそとちり
飲よくあかしくもつらふそと共とくくそつらふあそとちり
くそつらふあそとちりくそつらふあそとちりくそつらふあそとちり
さあく多し又人もあふとくくそつらふあそとちりくそつらふあそとちり
きこてつらふあそとちりくそつらふあそとちりくそつらふあそとちり
そよふあそとちりくそつらふあそとちりくそつらふあそとちり
とらふあそとちりくそつらふあそとちりくそつらふあそとちり
あそとちりくそつらふあそとちりくそつらふあそとちり



鈴鹿のおくにてのいさ紫うりそめふうに中をひらけりう那

うらなはなほなほしり人か着そそしうをのほとむたえ

とれる者はなりてのいさなり

久しうれりうらなほなほしり人か着そそしうをのほとむたえ

けらんちよへりていさなほしり人か着そそしうをのほとむたえ

うらなはなほなほしり人か着そそしうをのほとむたえ

とれる者はなりてのいさなり

うらなはなほなほしり人か着そそしうをのほとむたえ

とれる者はなりてのいさなり

うらなはなほなほしり人か着そそしうをのほとむたえ

初花のすなはち

梅のくれいしつゆはねしつたはなひそとさきあひしつみのゆきあはれ

初白梅むのこしつたはなと初を捨ててみるこをかく初白より
この白くをそつひしつたのちを伊勢物語のこをそねるなり

うめのくれあひつたさきあひそとあなしつたみだくしつたねはは

この白きあひつたさきあひそとあなしつたみだくしつたねはは

岩のくれいしつゆはねしつたはなひそとさきあひしつみのゆきあはれ

のちたつたのちさきあひつたさきあひそとあなしつたみだくしつたねはは

高のくれいしつゆはねしつたはなひそとさきあひしつみのゆきあはれ

この白いひるなりや。さきあひつたさきあひそとあなしつたみだくしつたねはは

里のくれいしつゆはねしつたはなひそとさきあひしつみのゆきあはれ

この白き伊勢物語のちさきあひつたさきあひそとあなしつたみだくしつたねはは

秋のくれいしつゆはねしつたはなひそとさきあひしつみのゆきあはれ

秋は飽きつたさきあひつたさきあひそとあなしつたみだくしつたねはは

る初らんうしきむの奥の海よまふゆのうらなひもな
これのうらなひけるう 積り奥よういさう後

かなーは秋のうらなひのきりけ 行く里ふゆやな

うらなひなむしうらなひ

うらなひも今うらなひのうらなひもなむしうらなひも

これのうらなひけるう

契あつてけりやらのゆめうらなひもなむしうらなひも

うらなひもなむしうらなひ

うらなひもなむしうらなひのうらなひもなむしうらなひも

これのうらなひけるう 積り奥よういさう後

昔月夜のを葉つらやまうらのそでうらなひもなむしうらなひも

うらなひもなむしうらなひ

はこころのあはれをいかにせんか
 心縁のたよりのことわらわたりて

なつかしき木の葉のうらみか
 今も昔も心にかたじけなく

あはれをいかにせんか
 昔のよさをいかにせんか
 昔のよさをいかにせんか

まじろく
 今も昔も心にかたじけなく
 昔のよさをいかにせんか

あはれをいかにせんか
 今も昔も心にかたじけなく
 昔のよさをいかにせんか

あはれをいかにせんか
 今も昔も心にかたじけなく
 昔のよさをいかにせんか

郭のしるしをうらなふにさかしまのむらさきうらなふにさかしまのむらさき

うらなふにさかしまのむらさきうらなふにさかしまのむらさき

うらなふにさかしまのむらさきうらなふにさかしまのむらさき

あるにうらなふにさかしまのむらさきうらなふにさかしまのむらさき

葉のしるしをうらなふにさかしまのむらさきうらなふにさかしまのむらさき

うらなふにさかしまのむらさきうらなふにさかしまのむらさき

うらなふにさかしまのむらさきうらなふにさかしまのむらさき

うらなふにさかしまのむらさき

末の夜とともあつらふ中のおくは
あつらふ中のおくは

初二の白に赤のまゝしるしの赤とあつらふ

あつらふ中のおくは
あつらふ中のおくは

神代よりけりあつらふ中のおくは
あつらふ中のおくは

況もも愛よこれ
あつらふ中のおくは

諸をけおの
あつらふ中のおくは

二の白に赤のまゝしるしの赤とあつらふ

あつらふ中のおくは
あつらふ中のおくは

あはれなるはなをみれば 花の香もよほす

あはれなるはなをみれば 花の香もよほす

あはれなるはなをみれば 花の香もよほす

あはれなるはなをみれば 花の香もよほす

あはれなるはなをみれば 花の香もよほす

あはれなるはなをみれば 花の香もよほす

あはれなるはなをみれば 花の香もよほす

あはれなるはなをみれば 花の香もよほす

あはれなるはなをみれば 花の香もよほす

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, enclosed in a rectangular box.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, enclosed in a rectangular box. The text is written in a fluid, connected style.

みり人の烟はなほさきさきと
あはれとてなほさきさきと
あはれとてなほさきさきと

あはれとてなほさきさきと
あはれとてなほさきさきと
あはれとてなほさきさきと

あはれとてなほさきさきと
あはれとてなほさきさきと
あはれとてなほさきさきと

あはれとてなほさきさきと
あはれとてなほさきさきと
あはれとてなほさきさきと

あはれとてなほさきさきと
あはれとてなほさきさきと
あはれとてなほさきさきと

あはれとてなほさきさきと
あはれとてなほさきさきと
あはれとてなほさきさきと

永唐をこころはくしとていかにいかにあはれむをせしむるにや

残白のトよそと

あれいふも志賀のむすめはなほいふにむすめをいふにや

残白のトよそと

ちよきなよ志の葉まじりうもても後いふも袖のうへは

残白のトよそと

よきれな新波の秋はむすめをいふにむすめをいふにや

残白のトよそと

袖のうけはこそは藤原のゆめをいふにむすめをいふにや

残白のトよそと

うはなむねに葉るゆめをいふにむすめをいふにや

残白のトよそと

まゝて致も教多くよこしつゝ身一なれそとつゝそのまゝて
作らばゆよむしきいさふらうめれを多くよまされし句
のひやなりの口やけ難し かく作の行よつゝおし
源割とこひ何をもあしき事なとひきしんさうなむしを
もつゝとあしき事なと必存存ぬむし かくたれし
あれしとぬとのなつゝあはれものもきつゝあしき事
事とこちしひきしあはれなれし決しんさうあしき事
あしき事しんとあしき事しんさうあしき事しんさうあしき事
なれしとかくしとあしき事しんさうあしき事しんさうあしき事
こしなれしとあしき事しんさうあしき事しんさうあしき事しんさうあしき事

さて志の如くよこしつゝ身一なれそとつゝそのまゝて
作らばゆよむしきいさふらうめれを多くよまされし句
のひやなりの口やけ難し かく作の行よつゝおし
源割とこひ何をもあしき事なとひきしんさうなむしを
もつゝとあしき事なと必存存ぬむし かくたれし
あれしとぬとのなつゝあはれものもきつゝあしき事
事とこちしひきしあはれなれし決しんさうあしき事
あしき事しんとあしき事しんさうあしき事しんさうあしき事
なれしとかくしとあしき事しんさうあしき事しんさうあしき事
こしなれしとあしき事しんさうあしき事しんさうあしき事しんさうあしき事

かなたうふことかまこと初巻のなつううのむよゆうをせし作
例よふうけいさそていひさよみやひるけい信よなる年なり春庭
老よ人のちを多くいふ巻終りされとふかく作例よつれさ
たうくゆやうよとをわつてさう

○古今集以後のそれよのものとて何れかともいれけ集より
出する事なれとて何れかともいふ事なれとていふ事なれ
いふ事なれとていふ事なれとていふ事なれとていふ事なれ
後撰集拾遺集もも老よ本款よとれさよとも多りれとて是も
うく是をいふ事なれとて後撰集の比何のつひさよ集なる一つの
さういふ事なれとていふ事なれとていふ事なれとていふ事なれ

とて代集よいふ事なれとていふ事なれとていふ事なれとていふ事なれ
ていふ事なれとていふ事なれとていふ事なれとていふ事なれ
のころより今く作るとのせよとていふ事なれとていふ事なれ
さよふい成事よけいさよりり利よとて新古今集は後撰集よさる
さあよりて集れさるよこれれ多し何のよちひさよいと
うさはしとていふ事なれとていふ事なれとていふ事なれとていふ事なれ
うさひとていふ事なれとていふ事なれとていふ事なれとていふ事なれ
うさき事よあけいさよれさよとていふ事なれとていふ事なれとていふ事なれ
うさよいと集れとていふ事なれとていふ事なれとていふ事なれとていふ事なれ
うさよとていふ事なれとていふ事なれとていふ事なれとていふ事なれ

用之りしはた又よき法式なりと云ふ事ありしは
中にも其の事ありしは又月記にありし事あり
事ありし多しと云ふ事ありしは又月記にありし事あり

○後此の歌詠をよむに
ふれし物もそのよきことばの縁ありし事ありしは
ふれし物もそのよきことばの縁ありし事ありしは
海山と云ふ事ありしは又月記にありし事ありしは

まじりし事あり

○歌学者といふ事ありしは又月記にありし事ありしは
といふ事ありしは又月記にありし事ありしは
おれてよき事ありしは又月記にありし事ありしは
なるといふ事ありしは又月記にありし事ありしは
てといふ事ありしは又月記にありし事ありしは
おんえといふ事ありしは又月記にありし事ありしは
不自中なる事ありしは又月記にありし事ありしは

○ 取是より... 記録式ハ... 書面文... 辨
... 小押後... 記録式ハ... 書面文... 辨
... 辨

... 肝... 記録式ハ... 書面文... 辨
... 辨

やちまふれさうを辨へまむと思ふと是の十音を採て
 何くむもいふてどくとせらふ是をいふてア。イ。ウ。エ。オ。を
 阿行カ。キ。ク。ケ。コ。を加行サ。シ。ス。セ。ワ。を依行タ。チ。ツ。テ。ト。を多行ナ。
 ニ。ヌ。ネ。ノ。を奈行ハ。ヒ。フ。ヘ。ホ。を波行ミ。ム。メ。モ。を麻行ヤ。イ。ユ。エ。ヨ。
 を也行ラ。リ。ル。レ。ロ。を羅行ワ。ヰ。ウ。エ。ヲ。を和行ヤ。ヤ。オ。の音は
 ア。カ。サ。タ。ナ。ハ。ニ。ヤ。ラ。ワ。オ。の音もイ。キ。シ。チ。ニ。ミ。イ。リ。ヰ。オ。の
 音もウ。ク。ス。ツ。ヌ。フ。ム。ユ。ル。ウ。オ。の音もエ。ケ。セ。テ。ネ。ヘ。メ。エ。レ。エ。
 オ。の音もオ。コ。ソ。ト。ノ。ホ。モ。ヨ。ロ。ラ。右。左。の音もどくとおぼて
 辟へく阿行としく阿行の文字加行としく加行の文字かと同
 のまうよういふ又オ。の音としくイ。キ。シ。チ。ニ。ミ。イ。リ。ヰ。オ。

何の音としくエ。ケ。セ。テ。ネ。ヘ。メ。エ。レ。エ。の文字同さきよういふ
 といふよういふ是を重きさうさてたしく加行の音五
 の音も何とすやよ。コ。と音も奈行の音四の音何とすやよ。ネ。と
 音も麻行の音三の音何とすやよ。ム。と音も羅行の音二の音何
 とすやよ。リ。と音も又シ。文字もいふよとすやよ。依行の音二の音
 とすやよ。テ。文字もいふよとすやよ。多行の音四の音何とすやよ。ホ。
 文字もいふよとすやよ。波行の音五の音何とすやよ。エ。とすやよ。い
 ふよ。也行の音三の音何とすやよ。依り思案するや。れ。す。よ。と
 いうよ。な。れ。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。と。い。ふ。よ。と。

う。くれ。産。汲。任。な。く。も。麻。行。四。段。の。活。句。を。り。羅。行。し。て。を。あ。ん。
つ。ん。ふ。ん。右。の。や。く。才。一。の。言。う。ふ。ん。の。て。よ。を。と。く。を。受。れ。て。
知。約。路。な。し。い。羅。行。四。段。の。活。句。を。一。段。の。活。句。を。加。行。し。て。を。
ま。ん。奈。行。し。て。を。よ。ん。波。行。し。て。を。む。ん。麻。行。し。て。を。え。ん。也。行。し。
て。を。い。ん。和。行。し。て。を。み。ん。右。の。こ。と。く。ひ。て。皆。そ。の。行。の。才。二。の。言。
き。二。に。こ。い。丹。ふ。ん。の。て。よ。を。と。く。を。受。れ。て。若。似。于。見。射。居。な。と。
一。段。の。活。句。な。し。は。活。句。を。才。二。の。言。一。言。の。こ。な。れ。と。い。と。か。な。し。
中。二。段。の。活。句。を。加。行。し。て。を。お。ま。ん。ま。ま。ん。つ。ま。ん。右。の。や。く。才。二。
の。言。き。ふ。ん。の。て。よ。を。と。く。を。受。れ。て。起。こ。そ。か。と。を。加。行。中。二。段。の。
活。句。を。り。多。行。し。て。を。くら。ん。と。ら。ん。くら。ん。右。の。こ。と。く。才。二。の。言。

才。ふ。ん。の。て。よ。を。と。く。を。受。れ。て。巧。因。恥。な。し。多。行。中。二。段。の。活。句。
な。り。波。行。し。て。を。お。ひ。ん。こ。ひ。ん。ま。ひ。ん。右。の。や。く。才。二。の。言。に。ふ。ん。
ん。の。て。よ。を。と。く。を。受。れ。て。生。意。強。ま。る。と。を。波。行。中。二。段。の。活。句。を。り。
麻。行。し。て。を。あ。み。ん。う。み。ん。右。の。や。く。麻。行。の。才。二。の。言。に。ふ。ん。
ん。の。て。よ。を。と。く。を。受。れ。て。活。恨。ま。し。い。麻。行。中。二。段。の。活。句。を。り。也。行。し。
て。を。お。い。ん。く。い。ん。右。の。や。く。才。二。の。言。に。ふ。ん。の。て。よ。を。と。く。を。受。れ。
て。老。悔。な。し。也。行。中。二。段。の。活。句。を。羅。行。し。て。を。こ。り。ん。
ふ。り。ん。右。の。や。く。才。二。の。言。に。ふ。ん。の。て。よ。を。と。く。を。受。れ。て。懲。舊。
な。と。を。羅。行。中。二。段。の。活。句。を。り。和。行。し。て。を。ひ。き。あ。ん。右。の。
や。く。才。二。の。言。に。ふ。ん。の。て。よ。を。と。く。を。受。れ。て。率。を。和。行。中。二。段。

〇う。ん。ひ。ら。下

の活句なり下二版の活句も阿行よても えん右の如く才四の言
エよりんのでよをこをうくれと得も阿行下二版の活句は柴か利
加行よても うけん しまけん つけん右の如く才四の言ケより
んのてよをこをうくれと受助積かとも加行下二版の活句なり
佐行よても あくせん うせん やせん右のこよく才四の言せよ
んのてよをこをうくれと合失瘦かとも佐行下二版の活句なり
多行よても いてん まてん へてん右のこよく才四の言テより
んのてよをこをうくれと出捨蒲かとも多行下二版の活句は柴なり
奈行よても かさねん しろねん ねん右の如く才四の言ネより
んのてよをこをうくれとま寝かとも奈行下二版の活句なり

波行よても えん つえん へん右の如く才四の言へよりん
のてよをこをうくれと替仕種かとも波行下二版の活句なり麻行
よても さめん まめん とめん右の如く才四の言メよりん
のてよをこをうくれと足進止かとも麻行下二版の活句なり也行
よても きえん こえん さえん右のこよく才四の言エよりん
のてよをこをうくれと消滅栄かとも也行下二版の活句なり羅行
よても かれん なるれん ふれん右のこよく才四の言レよりん
のてよをこをうくれと枯流觸かとも羅行下二版の活句なり和行
よても うえん うえん ねえん右の如く才四の言エよりん
のてよをこをうくれと植鐵君かとも和行下二版の活句なり才四版の

活詞を加行してカキクケ波行してハハヒフへと進行の才二れ
喜より次身は四股よりくなく一肢の活詞を奈行しても二
ニルニレ也行してイイルイレと活きてま行の才二の喜れ
よて一肢の活詞の中二肢の活詞も多行してチツツルツレ
麻行してモムムルムレと進行の才二の喜身三れ喜と四肢の
活の中二肢は活くなり下二肢の活を紫を佐行してモセススル
スレ羅行してルルルレと進行の才四の喜と身三れ喜と二
肢は活きて四肢の活の下二肢なり右のうち一肢の活詞中二肢の
活詞下二肢の活詞ふ・中を付るルレもそてく文字な
了けことやちさふくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

四種の活詞をさるること才一の事かれく又くわしたとハ
書暖かきそ何の活を紫そしつやかかんこうきこうき
内うんさきさきさげと活きて加行の才一の喜かようんの
てもとくを受てカキクケと活けハ加行四肢の活詞なり又思通かハ
何の活詞をといつやおもんおんおんおんおんおんおんおん
うふうふと活きて波行の才一の喜ハようんのてててててて
うけてハヒフへとくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
似見かとも何のくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
みるみるれと活きて奈行の才二の喜ニ麻行の才二の喜くようん
のてもとくを受てくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

活ことしきなり又藤原たると何の活詞そとつや おちん おつ
 おつ。 おつれ。 いちん。 ころ。 ころ。 ころれと活きて多行の身
 二の言ナリよん。 のてよとをさうけてチツと二股は活けを多行中二
 股の活詞なり又赦書かると何の活詞そとつや ゆりん
 ゆ。 ゆ。 ゆ。 ゆ。 りん。 りん。 りん。 りん。と活きて羅行の
 身二の言リよん。 のてよとをさうけてリルと活けハ羅行中二股の
 活詞なり又任瘦かると何の活詞そとつや まっせん。 まっす
 まっす。 まっす。 りん。 やせん。 やま。 やま。 やま。 やま。と活きて
 佐行身四れ言せよん。 のてよとをさうけてせ。 と二股は活け佐行
 の下二股の活詞なり又妻登かると何の活詞そとつや せめん。

せむ。 せむ。 せむ。 りめん。 りむ。 りむ。 りむ。と活きて
 麻行の身四れ言。 よん。 のてよとをさうけてム。 と二股は活け
 麻行下二股の活詞なり毛書の本とよく辨之。 されど身一の言
 よん。 のてよとをさうけてつ。 何と四股の活詞身二の言よん。 の
 てよとをさうけてつ。 何と二股の活詞と中二股の活詞身四
 の言よん。 のてよとをさうけてつ。 何と下二股の活詞なり
 きて物をあらゆ。 け。 け。 け。 け。 や。 や。 や。 や。と活きて
 ん。 のてよと四つあり。 ころ。 と下二股四股を一に言。 利そつ
 一股と中二股とを二れ言よん。 のてよとをさうけてつ。 何なり
 又四股の活詞を身三れ言。 より辨言よつ。 ころ。 ころ。 ころ。 ころ。と活きて

まろ。人なをひ一段の活詞と才二の喜ぶるも。そそきて辨言は
 續くるなり。え。月。い。尖なをひ中二段の活詞と下二段の
 活詞を才三は喜ぶるも。そそきて辨言は續くるなり。お。く。を。於
 り。わ。ん。な。を。ひ。い。う。と。後。い。つ。と。海。さ。む。い。後。な。を。ひ。わ。つ。さ。う
 ず。う。と。志。を。い。又。る。れ。の。文。字。を。才。二。の。喜。ぶ。そ。そ。き。て。け。い。こ。う。ん
 と。集。を。一。段。の。活。詞。才。三。は。喜。ぶ。れ。の。文。字。を。そ。そ。き。て。い。こ。う。ん。か。き
 ことと中二段の活詞と下二段の。い。ま。ま。に。集。を。ち。り
 る。れ。の。と。い。は。な。す。し。か。な。つ。と。志。と。才。二。は。喜。ぶ。も。そ。も。一。段
 辨。を。を。こ。い。り。し。ず。を。四。段。ち。り。二。は。喜。ぶ。そ。そ。き。て。い。や。を。一。段
 二。は。喜。ぶ。も。そ。そ。き。て。辨。言。は。い。い。と。お。と。を。中。と。下。ち。り

又すしてたりする。詞を四段の活は才四喜ぶそのま。 又すしては行
 一。と。は。さ。げ。な。を。ひ。一。段。の。活。中。二。段。の。活。を。才。三。は。喜。ぶ。も。い。り
 を。そ。そ。き。て。え。い。は。ね。き。ま。ね。か。ら。な。を。ひ。下。二。段。の。活。を。才。四。の
 喜ぶ。も。い。り。な。を。そ。そ。き。て。い。や。を。い。ま。代。を。喜。ぶ。も。い。り。い。き
 下。か。り。お。は。り。す。の。詞。を。も。い。り。あ。下。知。の。詞。を。い。り

四。は。喜。ぶ。を。四。段。を。も。い。り。下。知。を。い。り。下。二。段。は。い。を。そ。そ。き。て。い。り
 一。段。と。中。二。段。と。を。二。は。喜。ぶ。も。い。り。な。を。そ。そ。き。て。下。知。と。下。知。ち。り
 又阿奈也和の四行よを四段の活詞なり。 阿佐多羅の四行よ、
 一段の活詞なり。 阿佐奈の三行よを中二段の活詞なり。 下二段
 の活言集は。こと。い。り。も。い。り。の。こと。を。い。り。い。り。の。こと。を。い。り。

おんくもやうりてよふらさしと大解ふくろらねか
 古炊をさうりてあまのれに葉をさうりてふたの
 らせよとさうりて葉をさうりてさうりてさうりて代葉の
 委とよとさうりて葉をさうりてさうりてさうりてさうりて
 のさうりてさうりてさうりてさうりて

カ行中三版 八行四版 五行四版 カ行四版
 神ひちて終ひて水のさうりて葉をさうりてのさうりて

二行版 十行四版 カ行四版 十行三版
 さうりて葉をさうりてさうりてさうりてさうりてさうりて

カ行四版 五行四版 八行四版 十行下三版
 夏ゆよくくなくまきりあ〜おむら〜おまか〜さうりて

八行中三版 八行四版 五行四版 十行四版 五行三版
 さうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりて

カ行四版 五行四版 五行中三版 八行四版
 なま〜りて唐の酒やおらつ〜むむおむら〜さうりて

カ行四版 五行四版 八行四版 二行一版
 さうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりて

八行四版 五行下二版 八行中三版 三行四版 五行三版
 さうりてさうりてさうりてさうりてさうりてさうりて

八行中版 日
九行中版 十行下版
カ行四版 八行四版
 こゝにきてうらぬる中よゆき海へまれしうらま現たうらむ

カ行四版
 石乃申くものら流しうらぬるかゝるも足らぬとくま
カ行四版 三行版 九行四版
カ行四版 三行版

カ行四版 八行中版 八行下版
 うらて思ひおきうらむうらむ美代を神そまむむらぬのうら

須受能耶 藏板

江戸 須原義彦

弘所 末都 浅金利彦

伊勢松坂 柏屋兵助

